

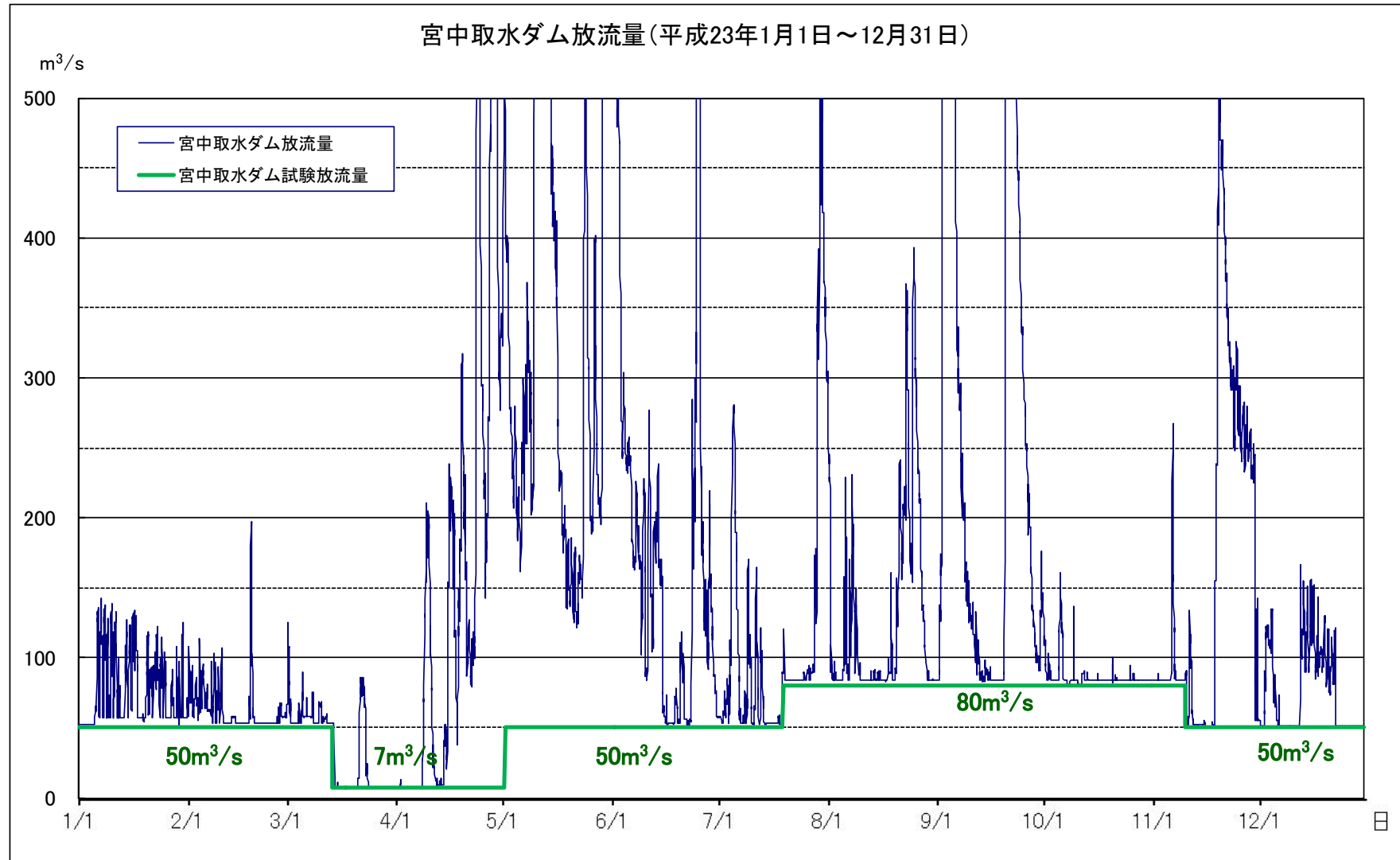
宮中取水ダム試験放流に伴う 平成23年度(2年目)の調査等結果

試験放流計画一覧

期 間	放 流 量 (m ³ /s)				
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
4月 1日～ 7月19日	50.0	50.0	40.0	4月1日～11月30日は40.0以上(流量変動に配慮した放流) 12月1日～翌3月31日は40.0	4年目までの試験放流結果を踏まえた放流。
7月20日～ 9月10日	80.0	80.0	60.0		
9月11日～ 11月10日	100.0	80.0	60.0		
11月11日～ 翌3月31日	50.0	50.0	40.0		

- 注1) 目的に応じて方法・期日等を定め、可能な期日に放流量を120m³/s以上とするなど、必要な試験放流を行うことがある。5年後の許可の更新に当たっては、調査検証の結果を踏まえて申請する。
- 注2) 平成22年6月9日に、国土交通省北陸地方整備局長より東日本旅客鉄道(株)千手発電所・小千谷発電所・小千谷第二発電所の河川法第23条(流水の占用)の許可がなされ、平成22年6月9日18時から取水及び試験放流が開始された。
- 注3) 東日本大震災に伴い、国土交通省北陸地方整備局長からの指示により、平成23年3月14日～4月30日の間で取水制限流量を7m³/sに低減した。

平成23年宮中取水ダム放流量



注1) 東日本大震災に伴い、国土交通省北陸地方整備局長からの指示により、平成23年3月14日~4月30日の間で取水制限流量を7m³/sに低減した。

平成23年度(2年目)の調査等結果のまとめ

○ 平成23年度(2年目)については、河川環境等の調査結果を平成22年度(1年目)と比較した結果、大きな変化は認められなかった。

第3回宮中取水ダム試験放流検証委員会検証結果(1/2)

モニタリング項目	平成23年度調査結果	評価
河川形態	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度は、洪水の影響による河川形態の変化が見られたが、洪水前の平成22年度と比較して局所的な変化にとどまり、宮中取水ダム減水区間全体では大きな変化は見られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 洪水による大きな変化は見られなかった
河川水温	<ul style="list-style-type: none"> 夏季の高水温期(7/26~9/5)に宮中取水ダム減水区間の最高水温が28℃を超える日が、3日あったが、平成22年度比較すると少なかった(平成22年度は21日)。 過年度同様、定点観測地点よりも水温の低い箇所を確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> 目安を概ね下回っていた
付着藻類	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度の藻類の異常繁茂面積割合の最大値は、平成22年度より少なく、全地点とも藻類の異常繁茂の目安とした17%を下回った。 	<ul style="list-style-type: none"> 目安を下回っていた
底生動物	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度の夏季調査は、平成22年度と比較すると、各地点で種構成、個体数の増減はあるものの、明確な変化の傾向は見られなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 大きな変化は見られなかった

第3回宮中取水ダム試験放流検証委員会検証結果(2/2)

モニタリング項目		平成23年度調査結果まとめ	評価
魚類の生息及び遡上・降下	生息・生育状況	・平成23年度に確認された種類数は、過年度と比較すると、大きな差は見られなかった。	・大きな差は見られなかった
	生息場の状況(濡筋)	・最低限確保すべき濡筋幅(水深30cmで13.5m)が連続して確保されていた。	・確保すべき濡筋幅を満たしており、洪水による大きな変化は見られなかった
	アユ生息・生育状況	・宮中取水ダム減水区間では、アユが生息・生育可能な環境が保たれていることが確認された。	・大きな変化は見られなかった
	サケ遡上	・平成23年度の遡上数は、平成21年度、平成22年度と同程度であった。	・大きな変化は見られなかった
河川景観		・見かけの水面幅と川幅の比は、全調査地点で0.2以上が確保されていた。 ・平成22年度と比較して、同程度の試験放流時における水量感に大きな変化は見られなかった。	・洪水による大きな変化は見られなかった
河川水質		・河川水質は、年間を通じて生活環境の保全に関する環境基準(A類型)を概ね満たしていた。	・環境基準を概ね満たしていた
河川利用	河川利用状況	・平成23年度は、平成21年度、平成22年度と比べて春から夏の利用者が少なかった。	・河川の利用を確認した
	釣り場適性把握	・アユの生息に適し、釣り場として利用できる可能性がある地点は、80m ³ /s放流時で24地点、50m ³ /s放流時で29地点であった。	・釣り場に適した地点を確認した
	舟下り適性把握	・50、80m ³ /s放流時の調査で、全区間(宮中橋下流～小千谷発電所放水口)にわたりラフティングボートでの航行が可能であることが確認できた。	・ラフティングの適性を確認した